

行財政入門講座が終了しました

報告： K・K

行財政改革の成果はどこに向かうか

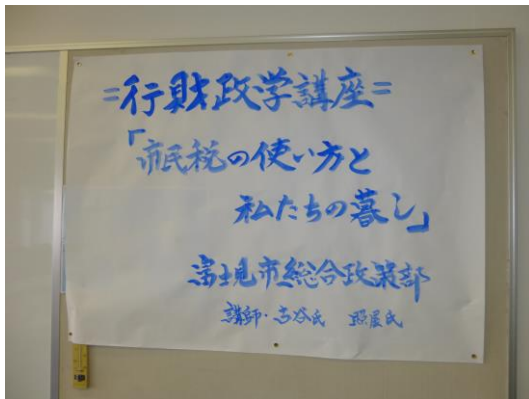
今回は3回の初級編で市の行財政が知ることをテーマに開催しました。初回は市の出前講座を活用し、富士見市の行財政改革がどう進められているか、2名の職員から丁寧に説明をしてもらいました。

皆さんも良く知っている北海道の夕張市の財政破たんから各地で財政運営を行政任せにしないで市民がチェックしなければという機運が起こりました。一方、市も市民に分かりやすい情報公開を目指し、特に予算・決算時には広報ふじみ、HPの掲載に工夫をしてくれています。

企業会計的な手法から我が家の家計簿的な説明などありました。

市では年時的に目標値を定めて正規職員を減らし、委託を増やし、総務費を減らしてきました。市民の生活は利便性が高まり安心して暮らせるようになったでしょうか？

< 初回9/7の教室風景 >



国が進める財政の情報開示

2回目以降は大和田 一紘先生から講義を受けました。
各市町がやっている以上に国は財政の情報を国民に広く提供しています。
一般会計、特別会計、企業会計について市財政担当者からの分析、意見も欄に記入させ誰でも読みとれるようにしています。
実際に、先生からのレジュメ資料に財政担当のどうとでも取れる意見が掲載されていました。国に報告された財政内容がだれにでも提供されるようになったのだから大いに利用しよう。

なぜ類似団体との比較が大事か

また富士見市と似た人口など同じような規模の自治体との比較がしやすくなりました。自分が居住する市だけでなく埼玉県だけでなく全国の似た市と比較することで見えてくること多くあります。
そのための魔法のような入口は総務省から出されている「決算カード」に昨年度以降「財政状況資料集」が加わり、今後はこの2点セットで見るのが重要です。

財政を市民目線でチェックするために「財政状況資料集」を大いに活用してほしい。



講師紹介：大和田 一紘 氏
NPO 法人多摩自治体研究所理事長
都留文化大学講師